

2021 年度 第 3 学年 授業要覧



東京歯科大学短期大学歯科衛生学科

Tokyo Dental Junior College
Department of Dental Hygiene

番号 _____

氏名 _____

目 次

キャリアデザイン	1 - 2
演習Ⅲ（地域歯科衛生）	3 - 4
卒業研究	5 - 7
総合演習	8
臨床・臨地実習Ⅱ	9
臨床・臨地実習Ⅲ	10

科目名： キャリアデザイン

担当教員： ※菅野 亜紀

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

女性の社会進出とともに働き方改革が進み、就業の選択肢が増えている現代において、ライフスタイルに合わせた歯科衛生士の働き方を考える上で必要な教養と自己開発能力を身につけるための基礎知識を修得することを目的とした教科である。

(ディプロマポリシー 4)

2. 一般目標 (GI0 : General Instructional Objective)

歯科衛生士として、将来への目的意識を明確にして、職業観をみにつけるために、キャリアデザインについての知識を学修する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) キャリアの概念を理解し、主体的に考えることの重要性を説明できる。(10%)
- 2) 自分自身をみつめ分析する方法を説明できる。(30%)
- 3) キャリアデザインするうえで直面する課題および促進するための力や資源について説明できる。(50%)
- 4) 問題発見と解決による自己研鑽の必要性を説明できる。(10%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
レポート、ディスカッション
- 3) 媒体：
スライド、プリント (学習に必要な資料を適宜作成して配布する)

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：各回の課題に対するレポートを評価する
- 2) 総括的評価：試験
 - ①定期試験は、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する (90%)
 - ②平常点評価
日常的な授業中の態度、課題の提出状況や内容などを評価する。(10%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1回目は特になし。第2回目以降は、前回の学習内容を見直す。(15分)
- 2) 事後学修
毎回出される課題に取り組み、当日の重要なポイントをリストアップする (20分)
- 3) 事前学修・事後学修の評価
事前：第1回目は特になし。以降は、前回の授業内容に関するディスカッションで確認する。
事後：各回の課題に対するレポートで確認する。

7. 教科書

特になし

8. 参考図書

山崎京子、平林正樹	未来を拓く キャリア・デザイン講座	(株)中央経済社
-----------	-------------------	----------

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/8	木	2	授業ガイダンス 総説 キャリアデザインとは ・外的キャリアを説明する ・内的キャリアを説明する	講義	14階教室	菅野
2	4/15	木	2	1-(1) 自己分析① ・自身の職業興味を知る ・ライフラインチャートを作成する	講義	14階教室	菅野
3	4/22	木	2	1-(2) 自己分析② ・ライフラインチャートについてディスカッションする ・自身の内的キャリアを分析する	ディスカッション	14階教室	菅野
4	5/6	木	2	2-(1) 「働く」を考える ・作業と仕事の違いを説明する ・「働く」とは何かを考察する	講義	14階教室	菅野
5	5/13	木	2	3 組織における人事評価 ・組織における人事評価の意味を考察する ・目標管理シートを作成する ・社会人力を考察する	ディスカッション	14階教室	菅野
6	5/20	木	2	1-(3) 自己分析③ ・自身のアピールポイントを考察する ・自身の内的キャリアを再分析する	講義	14階教室	菅野
7	5/27	木	2	4 エントリーシートの作成 ・自身のアピールポイントを書面化する ・履歴書の作成、送付方法を説明する	講義	14階教室	菅野
8	6/3	木	2	女性のキャリア形成を取り巻く福利厚生 ・社会保険制度を説明する ・育休・産休制度を説明する ・求人票の記載事項を説明する	講義	14階教室	菅野

9	6/10	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
10	6/17	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
11	6/24	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
12	7/1	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
13	7/8	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
14	7/15	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義)	講義	14階教室	菅野
15	9/2	木	2	総括 これまでの授業内容のまとめ 課題提示	講義	14階教室	菅野

科目名：演習Ⅲ（地域歯科衛生）

担当教員：※永井由美子 ※多田美穂子 ※菅野亜紀 ※江口貴子 ※高倉枝里子
※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

本科目は、地域における対象者に対し、好ましい生活習慣や態度を養成するために
行われる健康教育に関する知識・技術・態度を学び、人々の健康づくりを支援できる
能力を習得する科目である。(ディプロマポリシー1)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

「地域歯科衛生学」で学修した知識をもとに、地域における人々の健康づくりに必
要な技術を身につけ、生涯にわたる発展的学修につなげるために、演習を通じて、地
域歯科保健活動のアセスメント、計画立案、実施、評価、対象別の歯科保健教育方法
などの展開方法を修得する。さらに他職種との共通点や相違点を理解しながら、相互
連携の必要性についての理解を深める。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 地域の人々の生活実態、地域の社会資源などの地域特性について説明する。(10%)
- 2) 地域歯科保健活動に必要な地域診断の目的や評価方法について説明する。(15%)
- 3) 歯科保健教育の企画や実施、評価方法について説明する。(15%)
- 4) 他専門職と協働する重要性および方法を説明する。(10%)
- 5) 対象者に合わせた健康教育の教案を作成できる。(15%)
- 6) 対象者に健康教育を実践できる。(20%)
- 7) 健康教育のための媒体を作成できる。(15%)

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：講義
- 2) 能動的方法：グループディスカッション、ロールプレイ、
- 3) 媒 体：教科書 参考図書 PowerPoint 配布資料 (プリント)

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：第1～14回講義内の課題提出にて評価を行う。
ポストテストの実施とフィードバック。
相互でグループ発表にコメントする。
- 2) 総括的評価：態度評価 (グループワーク実施状況) (15%)
レポート (提出物期限厳守) (35%)
筆記試験 SB0s 1)～4) (50%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修：各10分
第1～7回：各回の内容項目について地域歯科衛生学の授業ノートを確認
各グループ内での課題の確認
第8～12回：媒体作成のための素材探し
第13～14回：各グループにて発表の練習
第15回：筆記試験のための復習

2) 事後学修：各10分

- 第1～2回：講義内容を再度確認し、重要なポイントを配布プリントや講義
ノートで教科書と確認
ポストテストで受けた内容を再確認
 - 第3～7回：各自課題レポート作成
 - 第8～12回：各回のグループディスカッションのまとめ
 - 第13～14回：他者評価と自己評価
- 3) 事前・事後学修評価：各10分
- 第1～14回：講義内の課題提出にて評価 (形成的評価) を行う
・提出された質問にコメントする
・相互でグループ発表にコメントする

7. 教科書

全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (第2版)	医歯薬出版
--------------------	--------------------------	-------

8. 参考図書

東京歯科大学社会歯科学講 座慣習	2020年版 歯科保健指導関係資料)	一般財団法人 口腔保健協会
全国歯科衛生士教育協議会 監修	歯・口腔の健康と予防にかかわる人 間と社会の仕組み1 保健生態学 (第3版)	医歯薬出版
文部科学省	「生きる力」を育む学校での 歯と口の健康づくり https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_R010050/index_h5.html#14	電子書籍

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または
終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。
ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅
延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/8	木	1	ガイダンス 地域歯科保健活動と技術、健康教育の概要、方法、評価	講義	14階教室	永井
2	4/15	木	1	地域歯科保健活動のフィールド ①保育所・幼稚園 ②学校 (小学校・中学校・高等学校) ③事業所 ④保健所・市町村保健センター ⑤地域・病院・施設 学習指導案について	講義	14階教室	永井
3	4/22	木	1	地域歯科保健活動の実践 (1)母子歯科保健活動事例研究	講義	14階教室	永井
4	5/6	木	1	地域歯科保健活動の実践 (2)学校歯科保健活動事例研究	講義	14階教室	永井
5	5/13	木	1	地域歯科保健活動の実践 (3)青年期歯科保健活動事例研究	講義	14階教室	永井
6	5/20	木	1	地域歯科保健活動の実践 (4)成人歯科保健活動 (5)産業歯科保健活動	講義	14階教室	永井
7	5/27	木	1	地域歯科保健活動の実践 (6)高齢者歯科保健活動	講義	14階教室	永井 江口

8	6/3	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育① ——教案作成 1——	講義 PBL	14階教室	多田 永井 高倉
9	6/10	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育① ——教案作成 2——	PBL	14階教室	多田 永井 高倉
10	6/17	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育② ——媒体作成 1——	講義 PBL	14階教室	多田 永井 高倉
11	6/24	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育② ——媒体作成 2——	PBL	14階教室	多田 永井 高倉
12	7/1	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育② ——媒体作成 3——	PBL	14階教室	多田 永井 高倉
13	7/8	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育③ ——発表 1 ——	発表	14階教室	永井 多田 菅野 高倉
14	7/15	木	1	健康教育 対象者別歯科保健教育③ ——発表 2 ——	発表	14階教室	永井 多田 菅野 高倉
15	9/2	木	1	筆記試験		14階教室	永井

科目名：卒業研究

担当教員：※安松 啓子、※鳥山 佳則、※佐藤 亨、※杉戸 博記、※片田 英憲、
※菅野 亜紀、※白鳥 たかみ、※永井 由美子、※多田 美穂子、※中田 悠、
※江口 貴子、※高倉枝里子
※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

学んできた歯科衛生学をもとに自分自身でテーマを設定し、客観的事実や論理的推論を通じて、問題解決力を養う。本学のディプロマポリシーの2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材、4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材となるための教科である。

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

研究遂行に必要な基礎的知識を習得し、研究論文を完成させることを通じて、将来、歯科衛生士として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 研究の進め方および概要が説明できる。
- 2) 日常臨床の中でテーマを見だし研究課題が設定できる。
- 3) 研究倫理について説明できる。
- 4) 研究課題に関連する資料・文献の収集ができる。
- 5) 研究計画の立案と研究方法の選択ができる。
- 6) 研究データの収集と分析ができる。
- 7) 研究成果を論理的に記述できる。
- 8) 研究成果をわかりやすく発表できる。

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

- 1) 受動的方法：
講義
- 2) 能動的方法：
演習、ディスカッション
- 3) 媒体：
スライド、パソコン (文献検索、論文作成)

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
レポート・研究計画書・観察記録 (30%)、卒業研究発表 (10%)
- 2) 総括的評価：
卒業研究論文 (60%)

6. 事前学修・事後学修

- 1) 事前学修
第1-17回：現時点までの研究実施内容の確認と、疑問点に関する教員との打合せ。
第18回：発表練習
- 2) 事後学修
第1-17回：解決した疑問点の記録、作成中のファイルや論文の作成など。
第18回：質疑応答の記録
- 3) 事前学修・事後学修の評価
レポート・研究計画書・観察記録

7. 教科書

指定しない

8. 参考図書

文部科学大臣決定	研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン (平成26年2月18日改正)	文部科学省
文部科学大臣決定	研究活動における不正行為の対応等に関するガイドライン (平成26年8月26日)	文部科学省
	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (平成26年12月22日)	文部科学省、厚生労働省
	東京歯科大学における公的研究費の管理・監査実施基準	東京歯科大学
日本歯科衛生学会 監修	歯科衛生研究の進め方 論文の書き方 第2版	医歯薬出版
眞木吉信 監著	歯科衛生士教育サブテキスト 卒業研究 HAND BOOK	クインテッセンス出版

9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から18時

10. 出席について

原則として、授業の開始から20分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または終了予定時刻から20分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

【前期】

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/8	木	3	オリエンテーション 卒業研究論文の書き方 進捗状況の確認	講義 演習	14階教室	安松
2	4/15	木	3	研究	演習	14階教室	指導教員
3	4/22	木	3	研究	演習	14階教室	指導教員
4	5/6	木	3	研究	演習	14階教室	指導教員
5	5/13	木	3	研究	演習	14階教室	指導教員

6	5/20	木	3	研究	演習	14階教室	指導教員
7	5/27	木	3	卒業研究論文の書き方	講義 演習	14階教室	安松
8	6/3	木	3	研究発表手順の説明 進捗状況の確認 (指導教員)	講義 演習	14階教室	安松

【後期】

回数	月日	曜日	時限	内容項目 (SB0s など)	方略 (LS)	場所	担当者
9	11/1	月	1 2 3	論文仕上げ・論文提出	演習	14階教室	指導教員
10	11/4	木	1 2 3	論文仕上げ・論文提出 (印刷へ)	演習	14階教室	指導教員
11	11/5	金	1 2 3	プレゼンテーション作成法 発表準備	講義 演習	14階教室	指導教員
12	11/8	月	1 2 3	発表準備	演習	14階教室	安松 指導教員
13	11/10	水	1 2 3	発表準備	演習	14階教室	指導教員

14	11/11	木	1 2 3	発表準備	演習	14 階 教室	指導 教員
15	11/12	金	1 2 3	発表準備	演習	14 階 教室	指導 教員
16	11/15	月	1 2 3	予演会	演習	14 階 教室	指導 教員
17	11/17	水	1 2 3	設営・試写	演習	発 表 会 場	指導 教員
18	11/18	木	1 2 3	発表会	演習	発 表 会 場	指導 教員
19	11/19	金	1 2 3	質疑応答集作成 研究協力者への挨拶等	演習	14 階 教室	安松

科目名：総合演習

担当教員：鳥山 佳則、佐藤 亨、安松 啓子、杉戸 博記、片田 英憲、菅野 亜紀、
白鳥 たかみ、永井由美子、多田美穂子、中田 悠、江口 貴子、高倉 枝里子、
各科目担当講師

1. 一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

適切な歯科医療の実践が行えるようになるために必要とされる学修してきた知識・技能を総合的に復習し、確実な問題解決能力の定着を修得する。

2. 行動目標 (SB0s:Specific Behavioral Objectives)

各講義科目のシラバスを参照。

3. 評価 (Evaluation)

1) 形成的評価：

別に定める各時期における模擬試験等を活用したフィードバック

2) 総括的評価：

別に定める学年末に実施する総合学力試験（卒業試験）

4. 教科書及び参考書

教科書：

各科目指定のもの

参考図書：

口腔保健協会； 歯科衛生士のための主要3科プラス専門分野問題集第3版

医歯薬出版； 2022年度版徹底分析年度別歯科衛生士国家試験問題集

医歯薬出版； 歯科衛生士国家試験予想問題集

DHS 歯科衛生士部； 国試の麗人II 直前まとめ編 2022Year Book

参考問題集：

医歯薬出版； 徹底攻略科目別歯科衛生士国家試験過去問題集基礎科目編

医歯薬出版； 徹底攻略科目別歯科衛生士国家試験過去問題集臨床科目編

5. オフィスアワー

随時／教員室

6. その他

1) 基本的には、講義・演習を中心にグループ学習にて学力の向上を図る

2) 講義の実施日時については、学内掲示を確認すること

3) 出席について

・以下の各期すべて8割以上の出席を求める

前期 4月から9月まで

後期I 11月から第1回卒業試験直前の講義まで

後期II 第1回卒業試験直後の講義から第2回卒業試験直前の講義まで

後期III 第2回卒業試験直後の講義から第3回卒業試験直前の講義まで

後期IV 第3回卒業試験直後の講義以降

科目名：臨床・臨地実習Ⅱ

担当教員：※菅野 亜紀、※白鳥 たかみ、※永井 由美子、※多田 美穂子、※中田 悠、

※江口 貴子、※高倉 枝理子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

この教科は、実際の歯科診療の場および病棟、高齢者施設など医療・介護の現場において、これまで座学で学んだ知識を臨床に結び付けて実践的に学修するという点が他教科にはない最大の特徴である。口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得することを目的としている。さらに、さまざまな職種や患者と接することで、コミュニケーション能力の基盤を修得する教科である。

(ディプロマポリシー 1・2・3・4)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得する。

3. 行動目標 (SB0s : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。
- 2) 各実習先における歯科衛生士の役割を説明する。
- 3) 各歯科診療における術式と使用器具を説明する。
- 4) 多職種と協働する能力を身につける。
- 5) 対象者の問題点を総合的に考察する
- 6) 各歯科診療の補助・介助を実践する。
- 7) 患者やその家族とコミュニケーションを図る。
- 8) 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。

※ 各実習先の行動目標の詳細については、臨床実習必携に記載する。

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

班ごとにローテーションする。

※ ローテーションの詳細については、実習前のガイダンスで説明する。

- 1) 受動的な方法： 該当なし
- 2) 能動的な方法： 臨床実習、ディスカッション
- 3) 媒体： 患者、利用者

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的評価：
実習態度の観察記録
- 2) 総括的評価：
口頭試問、実技試験、レポート、客観試験等で評価される。
※各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

6. 事前学修・事後学修

実習前のガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス時に実習の注意点や把握しておくべき事項の詳細が説明されるため、把握しておくこと。

1) 事前学修

毎回：登院する各実習先の臨床実習必携を確認の上、実習前にその日の目標を立てて準備する。(15分)

2) 事後学修

毎回：実習内容を振り返り、事前に立てた目標がどの程度達成できたかを客観的に評価し、改善点を考察する。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修・事後学修：日々の実習記録の記載内容および最終日に記載する「科のまとめ」から評価する。

7. 教科書

特になし		
------	--	--

8. 参考図書

特になし		
------	--	--

9. オフィスアワー

※各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

10. 出席について

- ・遅刻・早退は原則としてそれぞれ1回につき欠席0.5回と計算する。
- ・遅刻・早退となった当日の実習時間の3分の1以上が未履修の場合は、欠席とする。
- ・ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

科目名： 臨床・臨地実習Ⅲ

担当教員： ※菅野 亜紀、※白鳥 たかみ、※永井 由美子、※多田 美穂子、※中田 悠、

※江口 貴子、※高倉 枝理子

※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

この教科では、臨床・臨地実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、技能、態度を統合させ、より実践的能力を高め、口腔保健を担う専門職としての人々の素地を修得する。

(ディプロマポリシー 1・2・3・4)

2. 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得する。

3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。
- 2) 各実習先における歯科衛生士の役割を説明する。
- 3) 専門的な歯科診療の補助のために必要な技能および態度を習得する。
- 4) 多職種と協働する能力を身につける。
- 5) 対象者を総合的に把握し問題点を列挙する。
- 6) 患者やその家族とコミュニケーションを図る。
- 7) 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。

※ 各実習先の行動目標の詳細については、実習前ガイダンスで説明する。

4. 方略 (LS : Learning Strategy)

※ ローテーションの詳細については、実習前ガイダンスで説明する。

- 1) 受動的方法： 該当なし
- 2) 能動的方法： 臨床実習、ディスカッション
- 3) 媒体： 患者、利用者

5. 評価 (EV : Evaluation)

- 1) 形成的评价：
実習態度の観察記録
- 2) 総括的评价：
口頭試問、実技試験、レポート、客観試験等で評価される。
※各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

6. 事前学修・事後学修

実習前のガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス時に実習の注意点や把握しておくべき事項の詳細が説明されるため、把握しておくこと。

1) 事前学修

毎回：登院する各実習先の臨床実習必携を確認の上、実習前にその日の目標を立てて準備する。(15分)

2) 事後学修

毎回：実習内容を振り返り、事前に立てた目標がどの程度達成できたかを客観的に評価し、改善点を考察する。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修・事後学修：日々の実習記録の記載内容および最終日に記載する「科のまとめ」から評価する。

7. 教科書

特になし		
------	--	--

8. 参考図書

特になし		
------	--	--

9. オフィスアワー

*各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

10. 出席について

- ・遅刻・早退は原則としてそれぞれ1回につき欠席0.5回と計算する。
- ・遅刻・早退となった当日の実習時間の3分の1以上が未履修の場合は、欠席とする。
- ・ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。